

平成18年度豊かな体験活動推進事業（「長期宿泊体験の実施」）

長期宿泊体験推進校 実践報告

鶴田町立菖蒲川小学校

八戸市立松館小学校

平内町立西平内中学校

十和田市立十和田湖中学校

青森県立八戸商業高等学校

平成18年度豊かな体験活動推進事業（「長期宿泊体験の実施」）

【小学校：郷土・自然に関わる体験活動】

触れ合いを通し、良さと違いを知る体験活動

鶴田町立菖蒲川小学校

1 活動の概要

活動のねらい

郷土の自然や文化に触れ、体験を通しながら県南と津軽の違いと良さを発見し、地域の一員として自覚すると共に自立と自律する心をはぐくむ。

宿泊体験での共同生活を通して、友達と協力する力や切磋琢磨しながら自分を高めていこうとする豊かな心をはぐくむ。

活動の対象学年： 4学年・12名

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動場所	児童生徒の活動の状況
自然に関わる体験活動 種差海岸地域の海辺の調査 ・磯ビンゴ ・水産科学館見学と体験 自然体験活動 ・牛乳パック利用の絵葉書作り ・貝殻拾いとフォトスタンド作り ・南部煎餅作り	8月1日 ~ 4日 (3泊4日) 20時間	特別活動 (学校行事)	種差少年自然の家 水産科学館 マリエント	種差海岸の海、砂、貝殻生き物、海草に触れ、体験を通して調査した。 牛乳パック利用の葉書作りにより、リサイクルという意味が意識化された。 マリエント見学により、海辺の生き物について学習できた。
郷土の産業に関わる体験活動 りんご資料館におけるりんごについての学習 津軽りんご市場見学	8月20日 ~ 22日 (2泊3日) 15時間	特別活動 (学校行事)	板柳ふるさとセンター 津軽りんご市場	郷土の基幹産業であるりんごについての専門的な知識理解に十分な時間をとることが出来た。 隣町の板柳町に宿泊して種差には無い林檎園に囲まれた宿泊体験で、仲間作りやりんご学習、りんご市場見学によりりんごの収穫量等が学習できた。

3 学校支援委員会の体制

- ・ 学校支援委員会は、校内から校長・教頭・教務主任・4学年担任・養護教諭・事務主任の6名と、校外から保護者4名で組織し、年度始めと事業終了後に2回開催した。
- ・ 活動の場や指導者の確保、配慮事項として事前に三度ほど打ち合わせを実施した。県立種差少年自然の家においては、1回目電話により受託と内容及び指導者の手配等を確認した。2回目は、日帰りで活動内容、方法の詳細を打ち合わせた。3回目は、宿泊体験学習のため

に1泊研修に参加し、活動内容の総てを体験し、実地踏査をしながら安全面までを含めた実地研修をした。また、板柳町については地理的に近いこともあり二度の現場打ち合わせで詳細まで確認し、安全確保も含めた実地踏査をした。

4 活動の評価の工夫と指導の改善

ア 事前の意識調査から

家族から離れることの不安、好き嫌いの不安、一人で寝ることの不安、おやつ無し、ゲーム無し、テレビ無しの生活の不安がいっぱいある。

イ 配慮した事項

指導の中心者が関係機関と連絡を密にとり、実際の活動や体験内容を進めた。親元から離れるという不安感を取り除くために活動や体験に合わせ、出来る子、出来ない子、長所短所、得手不得手があることを分からせ、人間関係づくりに配慮した。活動内容を十分に理解させ、疑問点などに十分な話し合いと意見交換の時間をとった。

ウ 評価の工夫

宿泊学習に行く前の気持ちが解消され、充実した活動になるような十分な配慮をする。思い出作りの旅行ではなく、学習する喜び、日常生活には無い楽しみを活動内容にする。自分と友達、自分と大人という人間関係作りがうまく出来るように、その都度考えさせ、話し合いながら解決する。

時間をあまり気にすることなく、じっくりと計画に合わせ、充実感を体で感じる活動を進める。

中学年という好奇心の旺盛な時期であるため、未知の世界、今まで体験したことの無い活動であることから、十分な検討と吟味を行う。

5 活動の成果と課題

ア 長期の体験活動をした児童の変容

行って来た後の気持ち。

- ・ もう一回泊まりのある学習がしたい。
 - ・ もっと居たいと思った。
 - ・ 自分のことが出来るようになった。
- 世話してくれたお家の人、先生、宿泊施設の人に対しての気持ち。
- ・ ありがたい気持ち。
 - ・ 何でも教えてくれて優しい。
 - ・ おばさん方の作ってくれたご飯が本当に美味しかった。
- 宿泊学習をして今までに知らないことなどの発見。
- ・ 蟹のメスオスが分かったり、触ったり出来て楽しかった。
 - ・ 班長が優しく、みんなをまとめてくれていたこと。
 - ・ 友達みんなが本当に優しいことが分かった。
- 今までの自分より、自信がついた事や挑戦できた事。
- ・ みんなといつもよりたくさん遊ぶようになった。
 - ・ こま回しが4日目に全員(男女とも)出来るようになった。
 - ・ 自分の事は自分で出来るようになった。(洗濯3名、整理整頓2名)
 - ・ いろんなことにすぐ取り組めるようになった。(進んで挨拶、大きな声の挨拶)
 - ・ 一人でも眠れるようになった。
 - ・ 好き嫌いしなくなった。
 - ・ 自分から発表することに自信がついた。
 - ・ やれば出来るということが分かった。

このように一人一人の活動が体験として学習できたことが良く分かる。人とのかわりを持った行動、自立した行動などから、ねらいは達成出来たと評価したい。

イ 今後の取組への改善点や課題

先ず、教職員への受諾の趣旨、意図、内容、方法、期日等の共通理解を図る。保護者への共通理解を図り不安の除去にたっぷり時間をかけ、概要説明をする。保護者支援の役割を確認し、委員会の組織化をはかる。学級単位の活動であるため学級担任、校長を主担当にし全教職員の支援を得る。

ウ 二年目となる来年度は、今年度の成果を新4年生に引き続き活動させる。長期の宿泊による自立心確立と自律の生活を目指し、心も表現力も豊かに進められるようにする。

平成18年度豊かな体験活動推進事業（「長期宿泊体験の実施」）

【小学校・自然，文化や芸術に関わる体験活動】

郷土理解体験活動

八戸市立松館小学校

1 活動の概要

活動のねらい

郷土の自然や文化にじっくり触れさせ、発達段階に応じて郷土を理解し、愛する心を育てる。また、地域の社会奉仕活動の中で、豊かな人間性と社会性を育てる。

少人数縦割りグループを基本にし、寝食を共にして集団生活のルールを学ばせ、自立や協力といった行動様式と心を育てる。

自分たちの住む青森県の文化や芸術，歴史を学び、体験する活動を通して、郷土を愛する心を育てる。


活動の対象学年：3学年～6学年・17人

2 年間の活動の展開

期：郷土の自然体験活動や奉仕活動

期：青森県の文化・芸術体験

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置づけ	活動場所	児童生徒の活動の状況
(1)郷土に関わる 体験活動 石灰石採掘場 調査活動 地域奉仕活動 星座観察 学区安全マップ 製作活動 戦争体験のお話	8月28日 ～31日 (3泊4日) 24時間	総合的な学習 の時間(6) 理科(2) 特別活動(4) (学級活動)	松館地区 松館小学校 大慈寺	石灰石採掘場内の、普段は出入りできない場所を調査した。 学区にある梅の木の案内板を作成した。 夏の星座について、お話を聞いたり調査活動をしたりした。 通学路別に3つのグループに分かれ、危険箇所の調査活動を行い、安全マップを作成した。 学区に住むお年寄りから、戦争についてのお話を伺った。
		 (案内板の作成)	 (安全マップの作成)	
(2)自然に関わる 体験活動 野外体験活動 ボンファイヤー 磯の生物観察		特別活動 (学校行事)	種差少年 自然の家	屋内での活動を通して、友達や他校の友達と交流を深めた。 ろうそくの火を囲み、集いやゲームを通して友達と交流を深めた。 磯に住む生物を採取し、ビンゴを通して生物の調査活動を行った。

期	芸術や文化に関わる体験活動 三内丸山遺跡 調査・体験活動 県立美術館見学 浅虫水族館 裏方見学	11月16日 ～17日 (1泊2日)	特別活動 (学校行事)	三内 丸山遺跡 県立美術館 浅虫水族館	遺跡見学や勾玉作り体験活動を通して、遺跡についての調査活動を行った。館内においてアレコや県内出身者の作品の見学を通し芸術や文化に触れた。水族館内を見学した後、裏方の見学・調査を行った。
					(勾玉作り・三内丸山遺跡)

3 学校支援委員会の体制

校内支援委員会は全教職員6名で組織した。学校支援委員会は、校内支援委員会に加えPTA協力者、地区協力者、県・市教育委員会担当指導主事で組織した。それぞれの活動について主担当者が企画し、校内支援委員会で実施方法等について協議した。その後、地区協力者を直接訪問することにより、共通理解や連携がスムーズに行われ、実施する際の注意点やアドバイスを頂くことができた。また、県生涯学習課より青森での宿泊施設の情報提供、各種体験活動の講師の紹介をして頂き、校内委員会で体験施設・宿泊施設を下見し、担当者と打ち合わせをすることができた。



(視聴覚センターによる星座観察)



(物づくり体験クリスマスリース)

4 活動の評価の工夫と指導の改善

活動を期・期に分けて宿泊することで、郷土を愛する心の育成や体験を通しての人間関係作り、親元を離れての自主・自立といったねらいには迫ることができた。

活動後の評価方法として、体験活動のしおりへの感想記入や新聞作り等で記録を残し、自己評価表を作成し諸活動ごとに・での自己評価を実施した。また、保護者や地域住民対象に体験活動のまとめを発表することにより、自分たちの活動を振り返りその成果を実感させるようにした。

教職員の評価として、引率者を中心に行事評価(ねらい、実施計画・内容、成果と課題、子どもの変容など)を実施し、次の活動への方向付けとなるようにした。

5 活動の成果と課題

宿泊を伴う体験活動を通して、子供達の大きな成長が見られた。親元を離れて宿泊し、各グループに分かれ個々の役割や分担を決めたことで、責任感が生まれ自主的に動けるようになった。また、グループの仲間を気遣ったり助け合ったりしながら過ごしたことで協力・思いやり・感謝の心が育まれ、友達の良さに気づき積極的にコミュニケーションを取ることができるようになってきている。期・期ともテレビ・ゲーム・漫画を排除した生活を送り、自己の生活リズム(起床・就寝時刻、家庭学習等)の振り返りにもつながった。宿泊体験活動後も規則正しい生活リズムを心がけて生活するようになってきている。

体験活動の面から見ると、子供達は様々な場面で驚き、発見し、感動している様子であった。普段の学校生活では経験し得ないことを、実際に体験し調べていくことで、自分の興味・関心のあることを積極的に調べていこうとする態度が身についてきた。

課題としてあげられることは、食事である。期では地区のお寺に宿泊した関係で、朝・夕食を教員と保護者で作ることになったが、8月の体験活動であったため、食中毒の心配があり、さらに食材の買い出しや道具の運搬など担当教員の負担が大きかった。来年度は改善が必要である。

平成18年度豊かな体験活動推進事業(「長期宿泊体験の実施」)

【中学校：長期宿泊に関わる体験活動】

長期宿泊体験活動

平内町立西平内中学校

1 活動の概要

活動のねらい

社会福祉への理解と関心を深め、ともに生きるという社会連帯の心を養う。

星空を観察し、神話理解を深めたり製作活動に取り組む。

東京で職場訪問し、適切な進路選択のために、望ましい職業感を持たせ、自己の将来に対して主体的に考え、その実現のために励む態度及び実践力の向上を図る。演劇にかける情熱や陰の努力をレッスンやインタビューを通して、自己表現の喜びや重要性を学ぶ。

カナダ・韓国人留学生と東京下町の散策を通して、価値観の違いを体験し、国際理解につなげる。

活動の対象学年：3学年・19人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動場所	児童生徒の活動の状況
職場・職業・就業に関わる体験活動 フジテレビ、四五六菜館、国会議事堂 文化・芸術に関わる体験活動 世田谷SET、アミューズ 交流に関わる体験活動 カナダ、韓国留学生との交流	4月18日 ~21日 (3泊4日) 15時間 修学旅行	特別活動 (学校行事)	東京 横浜	インタビューや質問を通してより充実した生き方の追求。 劇団を訪問しての演技体験、芸能プロダクションを訪問してのマネジメントのノウハウを学ぶ。 秋葉原、浅草散策を通して価値観の違いを感じ取りながらの国際交流。
ボランティアなどの社会奉仕に関わる体験活動 ボランティアワークキャンプ	7月26日 ~28日 (2泊3日) 16時間	特別活動 (学校行事)	平内町 救護施設 白鳥ホーム	高齢者体験、介護教室、花火大会等を通じて、社会福祉への理解と関心を深める。

自然や勤労生産に関わる体験活動 まるっと星空探険教室	9月1日 ～3日 (2泊3日) 8時間	特別活動 (学校行事)	西平内中学校 (本校)	郷土の星空を観測し、星座模型製作、神話調査活動を通して郷土の自然を見直す。
活動のまとめ プレゼン制作 発表	10月28日 12月13日	特別活動 (学校行事)	西平内中学校 (本校)	今までの体験活動のプレゼンテーション発表 全校生徒、保護者、学校支援員対象。

3 学校支援委員会の体制

学校支援委員会は、校内から全職員の9名、校外からは、東青教育事務所1名、町教育委員会1名、PTA会長1名、PTA副会長5名、後援会会長1名、学区町会長8名で組織し、年度初めと年度末に2回開催。

自然や勤労生産に関わる体験活動では、地域との連携を密にして、地域の施設・設備、運搬車両の手配等の協力をお願いした。

4 活動の評価の工夫と指導の改善

活動の評価の工夫

ア 修学旅行

国語の「話すこと」の授業で取り上げ、スピーチ形式で自己評価と相互評価を実施。

イ ボランティアワークキャンプ、まるっと星空探険教室

感想文と作文による自己評価。

ウ 外部評価

文化祭、PTA例会でプレゼンテーション発表。

指導の改善

ア 活動のねらいに沿った生徒主体の体験活動の早期計画、立案の吟味、さらなる地域力の活用と地域への情報発信の工夫。

5 活動の成果と課題

活動の成果

ア 以前に比べ、視野が広がり、多面的に物事を捉えられるようになった。

イ 「一人じゃない」ことを実感し、家族や仲間や教師と過ごす時間の大切さを学んだ。

ウ 今までは行動に表れない場面があったが、思いを素直に表現できるようになった。

エ 子ども達ばかりでなく、若手教師にとってもいい経験になり先見性や企画力、観察力の向上につながった。

課題

ア 対象学年以外は、まだまだ人間関係の構築がスムーズに行われていない。

イ 親子の対話が成り立つようになってきているが、行事の前後だけという単発的なものではなく、日常的にできるよう学校側がしかけていき、さらに親子の絆を深める手助けになればと考えている。

平成18年度豊かな体験活動推進事業（「長期宿泊体験の実施」）

【 中学校・郷土・自然に関わる体験活動 】

自然とのふれあい体験活動

十和田市立十和田湖中学校

1 活動の概要

活動のねらい

本校は、へき地という事情、かつ保護者が観光業に従事している家庭が多いことから、他地域に出かけることが少ない。そこで、他地域にでかけ、自然・文化等について体験させることで、郷土について考えさせる機会とする。

郷土の観光業や国立公園に関わる職場体験活動を実施し、自らの生き方について考える機会とする。

宿泊体験学習を全校異年齢集団活動として実施し、集団活動のあり方や互いを認め助け合う精神を育て、本校教育目標の「豊かな心で他を思いやる生徒」を育成する機会とする。

活動の対象学年：1，2学年・9人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動場所	児童生徒の活動の状況
自然・文化歴史 に関わる体験活動 「全校宿泊遠足」	7月6日 ～7日 (1泊2日) 12時間	特別活動 (学校行事)	下北少年自然 の家(むつ市)	自然の家のプログラムの一つ である「雨の一粒体験」を行 った。また、野外炊飯活動も 体験した。 恐山付近の散策と恐山見学を 行った。
勤労・生産体験 活動 「職場体験」	7月31日 ～8月2日 18時間	特別活動 (学校行事)	十和田湖中学 校学区(休屋 地区)	保育園をはじめとする、生徒 が希望した7事業所におい て、可能な業務や作業を行っ た。
郷土・自然に関 わる体験活動 「キャンプ」	8月8日 ～9日 (1泊2日) 12時間	特別活動 (学校行事)	十和田湖小学 校グラウンド	野外炊飯やキャンプファイア-などの 野外活動を子ども会と連携し て行った。

歴史・自然に関わる体験活動 「1, 2年冬季 宿泊自然体験」	2月7日 ～9日 (2泊3日) 18時間	特別活動 (学校行事)	ふれあいセンター (七戸町)	称徳館(十和田市)を見学し、郷土の歴史を学んだ。 スキー体験(七戸町)、スケート体験(三沢市)を行った。 宿泊先では、自炊、食の大切さを学んだ。
活動のまとめ	6月～2月 6時間	特別活動 全校集会	十和田湖中学校	今までの体験活動をもとに資料(レポート)を作成した。 全校生徒、保護者や地域を対象に活動について発表した。

3 学校支援委員会の体制

ア 校長を中心に企画会議及び職員会議において十分な検討を行い、さらに学校支援委員会での協議をし、共通理解を図り円滑かつ効果的な体験活動の推進に努めた。

イ 学校支援委員会は、校内から教職員10名、校外からはPTA会長、学校評議員3名の合計14名で組織している。

ウ 学校支援委員会は、主な計画、特に検討が必要である課題等、体験活動の充実を図るため、年2回開催。

4 活動の評価の工夫と指導の改善

- ・活動終了後、生徒の感想文や自己評価を記録として残し、関心・意欲の向上を図った。
- ・引率者を中心に活動の反省(教師の役割分担、活動のねらいと達成度、生徒の変容等)を行い、次の活動への方向付けとなるようにした。

5 活動の成果と課題

- ・宿泊体験活動を分割して実施することにより、宿泊における個々の役割や分担、協力、基本的な生活習慣などにおいて成長のあとがみられた。
- ・活動後のアンケートには、参加生徒のほぼ全員が体験活動の意義を認めている。中でも、下北青少年自然の家で行った川を下って海までいくという「雨の一粒体験」は、日常生活では味わうことのない体験であり生涯忘れることができないことだと述べている。
- ・今回の体験活動は、生徒同士だけでなく、生徒と教師間の信頼関係も深まり、互いの良さを発見する貴重な時間であったと満足している。普段、他の地域に出かけることが少ないため、生徒にとっては見るもの、体験すること全てが大きな刺激となり励みにもなっていると感じた。また、生徒が郷土の文化・歴史、自然を見直し、愛着を持つ機会となっている。
- ・様々な体験活動をおこなったが、その経験を学校生活(日常生活)等で生かせるような場の設定などの工夫が必要であり、本事業を継続的に行っていくためには、予算面での工夫も必要である。

平成18年度豊かな体験活動推進事業（「長期宿泊体験の実施」）

【高等学校・伝統工芸と国際交流に関わる体験活動】

国際交流を通じて郷土を理解し愛する体験活動

青森県立八戸商業高等学校

1 活動の概要

活動のねらい

郷土の伝統工芸を学び、製作活動をとおして郷土を愛する豊かな心を育む。

異文化交流を通じて、コミュニケーション能力を促進し国際感覚を育む。

宿泊体験を通じて、集団行動としての豊かな人間性と社会性を育む。

活動の対象学年：2学年（国際経済科）39人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動場所	児童生徒の活動の状況
郷土芸能 「八幡馬」の 製作	9月 2時間	教科内活動	本校	外部講師のもとで絵付けから仕上げまでの全ての行程を手作業で行った。
イト・グレインスクールとの交流 事業	10月 6時間	特別活動 (学校行事)	三沢市 米軍基地 内	同年代の高校生との意見交換をとおして、外国語でのコミュニケーションの難しさ楽しさを体得できた。スポーツ交流をとおして友情を深めた。
海外修学旅行 事前研修	11月 6時間	特別活動 (学校行事)	八戸市 三八教育 会館	海外修学旅行先で想定されるシチュエーション毎に語学研修を行った。また、八幡馬について ALT に英語で説明した。
海外修学旅行 1)ホームステイによる異文化 理解 2)ホストファミリーとの交流 3)郷土の文化紹介 4)現地ハイスクールでの交流 5)現地企業 訪問	12月1日 ～6日 (4泊6日) 17時間 2時間 1時間 2時間 3時間	特別活動 (学校行事)	ハワイ ホームステイ先 ファーリントン 高校 ヒルトンホテル	1)英語学習の成果を試すべくホームステイ先でコミュニケーションの実践を行い、習慣による違いなど異文化を体験した。 2)ホストファミリーとの対面式等により交流を図った。 3)ホストファミリーに八幡馬を土産として手渡し、英語で説明した。 4)同年代の高校生との触れ合いを通してさまざまな文化の違い等を体験した。 5)現地企業を訪問し、国際経済の理解に努めた。

3 学校支援委員会の体制

今年度、校長を中心として校内の教員で構成し、体験の場や機会の開拓、指導者の確保等について協力体制を築いた。本事業は国際経済科2学年を対象に、体験活動を円滑かつ効果的に実施するため、計画・実践方法・課題・予算等について協議した。



(八幡馬製作風景)



(海外修学旅行)



(現地高校生との交流会)

4 活動の評価の工夫と指導の改善

今年度は、体験活動を行う前の課題の提出状況、実施後の感想文・アンケートを担当教員が評価、外部講師による総合評価も教科の評価に組み入れるなど、活動内容により評価方法を工夫した。それぞれの結果は総じて良好との回答を得ている。具体的には、八幡馬製作での事前の英文でのプレゼンテーション、定期考査への出題、考査における個々の理解度、課題の提出状況、意欲・関心・積極性など態度等の複数の観点から評価している。また、特別授業では、海外修学旅行で想定される場面ごとに9名の外国人指導助手に個々の生徒を評価してもらった。その結果を総括し、外国語科教員が教科(英語実務)の評価に取り入れた。

また、語学、コミュニケーション、異文化理解の総合的な実践の最終目標が海外修学旅行である。本事業の4つの活動を互いに関連させ活動内容を深めるようにした。事業の特性上、点数での評価が難しい内容もあるものの、関連教科の担当者と連携を図り、事前に到達目標や観点を設定し、生徒の到達度を検討し評価を行った。

改善点としては、生徒の自己評価、生徒相互の評価を参考にすることも検討していきたい。

5 活動の成果と課題

本事業により国際理解やコミュニケーションの実践、郷土文化の理解など多様な活動を体験するなどの段階を経て、海外修学旅行でそれらの成果を試す一連の活動を行うことができた。生徒に課題や活動の場を提供し、さまざまな観点からそれら进行评估しフィードバックしながら行ってきた。それらの繰り返して、生徒はさまざまな感性や知識を身に付け、また理解を深めることができた。

今後は、これらの活動を通して獲得した自信や経験を基礎力とし、個々の進路決定の幅を少しでも広げるように活用していくことが課題である。講師を探す事に対する労力や複数教科の教員連携を図ることは容易ではないが、生徒の豊かな知識や体験が今後の大きな財産になることを確信している。最後に、本事業は地元のマスコミに取り上げられるなど、地域社会の協力を得て、社会的役割を果たしているものと考えている。